

「苦勞することの大切さ」

2018年度 政策室
副理事長 山北 真也

苦勞は誰だって嫌なものです。

できることなら苦勞することなく、楽なことをしたいという人が大半だと思います。でも、現実を見てみると、何においても楽をして得ることは難しく、また、楽をして得たものはそれなりの価値にしかありません。

本気で苦勞を味わった人間は、『どうにかこの状態から抜け出したい』と本気で願い、その苦勞から抜け出すための方法を一生懸命に考え、「思考」という習慣が育まれていきます。そして次に、「自分には何が足りないのか」を考え、自分や周りの人間が置かれている状況や心理、変化を敏感に察知する「感性」が磨かれます。また、苦勞から抜け出すために新しいことに果敢にチャレンジする「勇気」も身についてくるのではないのでしょうか。つまり、苦勞とまともに向き合った人間は、「思考」「感性」「勇気」を備えることができるようになるのです。

苦勞をしても報われないことがあるかもしれませんが、苦勞することで得ているものは、目に見えない形で自己の成長に必ずや繋がります。一人一人の苦勞の積み重ねが、大きな渦となりその成果として青年会議所活動に現れる。このサイクルこそが、今の尾道青年会議所に必要な要素だと考えます。

J Cしかない時代から、J Cもある時代となっている今、我々尾道青年会議所の存在価値を示すために、我々メンバーが地域の青年経済人としての模範となり得る人材になるために、改めて苦勞することの大切さを考え行動してまいりましょう。